

秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会 第5回会議 中央地区部会（概要）

1 日 時

令和4年10月14日（金）13：30～16：00

2 場 所

本荘高等学校 会議室

3 出席者

- 秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会委員 8名
- 事務局（高校教育課） 6名

4 協 議

委員からの主な意見

- ・適正規模を4～8学級に決めたからといって、一概に、3学級は即だめだということではない。学校の特色とか、地域との関わり方によって運用の仕方を考えていくのもありではないか。
- ・生徒によっては、生徒数が多いのが苦手なので、小規模校でゆっくりやりたいとか、先生と親密にやっていきたいという人もいる。選べるということが不可欠である。
- ・一つの学校の中にいろいろな生徒がいるというのもそうであるが、いろいろな学校があって、そこから選べるというのが地域の生徒にとってはいいのではないかと思う。
- ・交通の便について、通えるということが必要かと思う。
- ・生徒が選択できる科目数を担保するためには、ある程度の専門性をもった教員数が必要であり、その教員数を維持するためには、6学級が必要ということだと思う。しかし、進学を中心校に関しては、そもそも生徒数で教員数が決まるというシステム自体を変えないと厳しいのではないか。
- ・地域に残す以上は、地域の協力も仰ぎながら学校運営を行っていくことが必須である。学校というのは、学校と家庭と地域が連携しないと成り立たない。
- ・統廃合は数合わせではなく、教育の質を上げ、学校の特色を出すために行うものである。統合して良かったと思ってもらえる学校をつくる方が夢があり、将来性がある。
- ・定時制課程は、コストパフォーマンスとかそういうことではなく、様々な事情を抱えた生徒に広く高等学校教育を受ける機会を提供する場として、必ず残していかなければいけない。

- ・これから新しい学校をつくっていく際には、農・工・商といった地域産業と連携をしていくことが大切である。